草筆木筆で描く不思議のらかんたち

草画帖 37

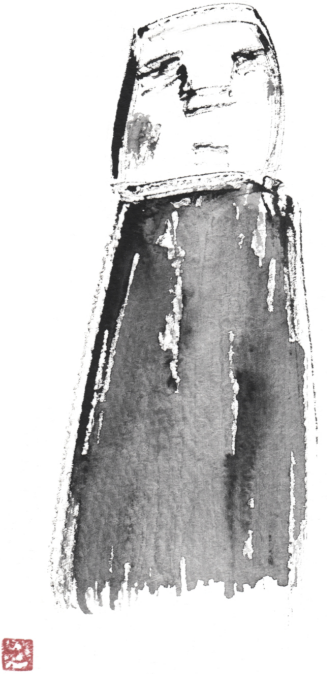
棕櫚号

棕櫚号です。
三角軸の鉛筆のような葉柄。
緑色は褪せても愛用の木筆。

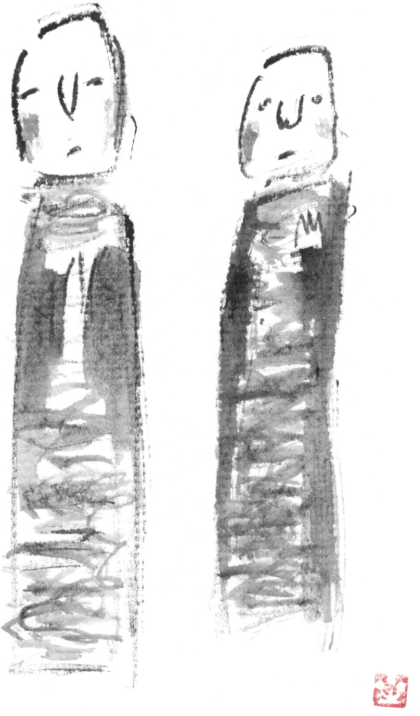
ゆく宛の無けれど空に棕櫚の花

棕櫚は文人のような木。虚空に佇立する。

シャラシャラときみは何を歌っているのだ。



名月や火星を添へて棕櫚小路



棕櫚小路には、二本のシュロ姉妹が風に立っている。

散歩

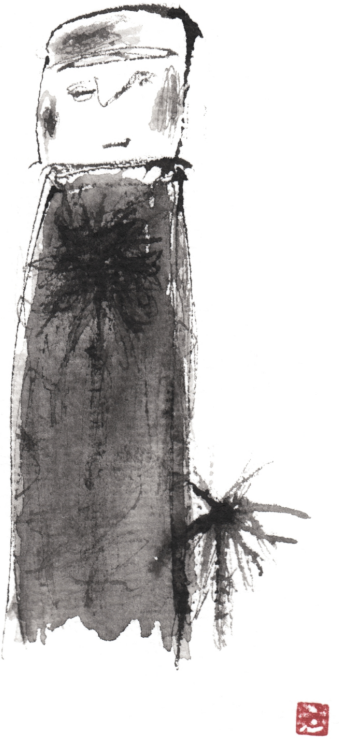
小雨の中を
傘をさして散歩した
路地から路地へ
やさしいパズルを解くように
鳥の声を聴き
鳥の羽を拾い
何の花だか
白い五弁の寂寥も落ちていた
胸ポケットに
それらをしまい
散歩も
詩作も
夢想も
旅であるような足どり

棕櫚

棕櫚小路では
風の強い日に
風のこどもが
電車遊戯をする

棕櫚は
高みで
駅長のように鳴る

枯れた花茎を筆に。風羅は芭蕉や棕櫚に風を学ぶ。



鳥が運んだ野棕櫚。旅から旅へ野風羅。

河童忌の棕櫚雨風になぶられて

棕櫚の葉よ。俺の神経よ。　——芥川龍之介

緑の棕櫚筆で書いた「悲」の字。

草話

風に吹かれてゐる棕櫚の葉よ
お前は全体もふるへながら、
縦に裂けた葉も一ひらづつ
絶えず細かにふるへてゐる。
棕櫚の葉よ。俺の神経よ。

死の一年前に書かれた芥川龍之介の詩「棕櫚の葉に」。親友の小穴隆一も「手のつけられない病人、芥川の脳神經は棕梠の葉つぱの裂けたやうなものだ」と回想している。

去年の河童忌に棕櫚小路を歩いた。雨に打たれ、風に騒ぐ棕櫚を眺めていると、龍之介の蓬髪が思い出された。

＊

棕櫚には文人の匂いがある。蕪村に「棕櫚に叭々鳥図」があり、若冲に「棕櫚に雄鶏図」がある。

この間棕櫚小路をハッカチョウ（叭叭鳥）が渡っていった。もしやと後を追いかけたが、現代の鳥は近くの電柱に止まっていた。

＊

漱石の小説に「そこには棕梠の筆で書いたような、大きな硬い字が五字ばかり床の間にかかっていた。」という記述がある。

ぼくは棕櫚の葉柄や、枯れた花枝をそのまま使うばかりだが、実際に棕櫚の鬼毛で作った棕櫚筆というのはあるようだ。

陶ドラゴン筆置

俳句 白山鳥翁 ／ 絵 艸々子 ／ 詩 泉井小太郎

草画帖 第37号 2021年5月26日 泉井小太郎編集 六角文庫発行
〒675-2312 兵庫県加西市北条町北条1039　Tel 0790-42-6008